

## ◆ONE PIECE

★

1000ピースのジグソーパズルも、500ピースを組み上げたところあたりで完成図がなくとも全体像がおぼろに見えてくる。700ピース組みあげれば、もう、残った部分の絵柄も想像できるようになる。ここまでくれば、後はテンポよく一気に完成させるだけだ。

★★

麦わらの一味の「ONE PIECE」も、700ピースあたりに差し掛かったところだろうか。最終盤に、世界がぶっ壊れるようなものすごいことが起こりそうだと分かってきた。

「ONE PIECE」は、巧妙な仕込みの連続が魅力だ。誰かが小さくつぶやいた一言や気にならない程度に話の中に挿入された2、3コマの異質な場面が、その後の話できっちり生きてくる。その構想力のすごさが、500ピースあたりからはっきり分かってきた。

「Dの血」や「万物の音が聞こえる」といった小さなつぶやきだけに終わっていることが、どんな形でこの後の話に繋がってくるのか。ロビンが解明しようとしている過去の歴史も、ソロ×たしぎ×ミホークの決着も、青キジのその後も、アイランドクジラのラブーンとガイコツのブルックの再会も、楽しみだ。いろんなことがテンポよく、エンディングに向かって、ひとつつながりになっていくだろう（一つひとつ、きちんと決着していつてくれるだろう）。ルフィがシャンクスに麦わら帽を返す場面が終盤最大の見せ場であることは疑いないが、その場面ではきっと、エニエスロビーの戦いの最後にメリー号が現れたときのように、号泣するだろう。

★★★

ところで、これまでに出てきたキャラの中では、オカマ拳法のボンクレーと冥王レイリー、それに海侠シベアがいい。中でもレイリーは、最高にかっこいい。レイリーのように武闘色の覇気を使えたらいいのにと、そんなことを考えていたら、昨夜、庭先に生ごみを捨てに行ったときに真っ黒いノラ猫と遭遇し、こいつが「フーッ」と武闘色の覇気を出したので、こっちは思わずビビってしまった。この猫をレイリーと呼ぶことにした。

★★★★

最近、自分が悪魔の実を食べた能力者（自然系）であるなら、雷（いかずち）を打ち出したり、大地を引き裂いたりしたくなるような、心穏やかでいられないことが多い。国会はでたらめだし、電力は結局危なかったのか余裕だったのか分からないし、尖閣や竹島の問題は虫歯に歯ブラシをゴリゴリ押しあてられるような気分だ。世界が狭くなりすぎたのか、何がいけなかったのか、誰がいけなかったのか。せっかく途中まで出来あがっていた1000ピースのジグソーパズルの大作が、グシャッと崩れたような感じがする。もしかすると、ピースが足りなかったか、完成予想図とは違うピースが入っていたのかもしれない。いずれにしても、最初からやり直しのようだ。大変だがやるしかない。まず、枠になる、直線をもったピースを集め、次に似たような色合いのピースを集め、そこから全体像を想像する。そして、合体できる2片を一つひとつ見つけていく。大きな構想力をもって、この地道な作業をやるしかない。

★★★★★

ワンピース（ひとつながり）の宝とは、いったい何だろう。バラバラにされた古代の碑文のメッセージだろうか？それに関連付けられた人だろうか？・・・それを下手に想像するのは置いといて・・・グランドラインの地理がよく分らん！ 西の海とか北の海というのは、どんな線引きで区分するのか？ ラブーンに合うには結局元来た道に戻るしかないのか？